調 查•研 修 報 告 書(議員用)

報告者: 前田 智永

実施場所: 鹿児島県霧島市牧園町

(第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会

実施日:令和4年10月6日から7日

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

本市にとって和牛振興は重要な施策であり、全国大会での審査は今後の比婆牛のブランド力や売上の向上に関係するものである。

実際に現地で出場牛と出場者の応援をするとともに、今後の畜産市場に生かせる取り組みを学びたい。

■参考とすべき事項

5年に一度の全国大会ということで、出場牛の体づくりや調教、信頼関係構築等、日程を合わせることに困難さを感じた。黒毛とあかうしを同じ土俵で審査品評することにも疑問がある。しかしながら、本市の庄原実業高校の生徒による発表では、一生懸命さや真剣さが伝わり、大変素晴らしかった。広島県で揃えたカープ調のユニホームも北海道新聞等で掲載頂いたり、外部発信に有効だったと感じる。

全国から集まることで他県他市町や関係事業者の取り組みなども知ることができ、畜産関係者だけでなく、一般の来場者も大変大勢来場され、PRや情報交換に有効な機会である。 ICT を使った畜産技術や機械等大変興味深いものがブース出展されていた。車での来場は困難であり、シャトルバスが用意されていたが、長蛇の列で時間調整が大変厳しかった。 イベントの充実やブーススペースの広大さを来提表に十分楽しんで学んで頂くために

イベントの充実やブーススペースの広大さを来場者に十分楽しんで学んで頂くためには、駐車場やシャトルバスの充実がより必要と考える。

次の北海道大会に比準を合わせ、より上位を狙うとともに、比婆牛振興や経済効果のために広島大会として本市への誘致も考えて頂きたい。

■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)

出場への準備や比準合わせにしっかりと時間をかけるべき。学生の発表はアピールの仕方や魅せ方を研究していただきたい。移動手段や日数による出場牛と出場者の負担軽減が必要。出店ブースでは来場者に PR するためのパンフレットやガイドブック、試食等賑わいがあるブースに人が集まっていた。費用はかかるが、PR の仕方で比婆牛や本市の畜産振興のみならず、観光や移住定住の振興にも繋がると感じ、研究が必要であると感じた。